クレア支部

山梨県が 外国人住民の「第2のふるさと」になるために

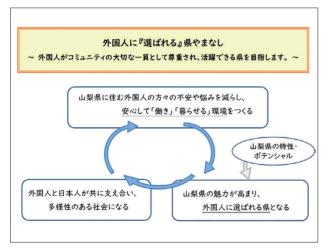
山梨県知事政策局外国人活躍推進グループ 石原 盛次

外国人活躍ビジョン

山梨県は、他の自治体と同様、2000年代後半に多文 化共生推進指針を策定し、外国人住民の支援体制の確立 や多文化共生のための環境づくりに向けた取り組みを進 めてきました。

さらに、2020年2月には、在留資格「特定技能」の 創設や多様性のある社会実現の動きの活発化などの社会 的背景もあり、「やまなし外国人活躍ビジョン」を策定 しました。外国人の「活躍」を前面に打ち出したビジョ ンの策定は全国初のことであります。本ビジョンの旗印 のもとに、外国人の受入促進と共生推進を戦略的に進め ることにより、外国人に「選ばれる」県になることを目 指しています。

外国人活躍ビジョンの「目指す姿」



多文化共牛社会実現構想

一方、2022年には、多様な価値観を認め合い、誰も が活躍できる共生社会の実現に向け、県庁に新たな部局 である「男女共同参画・共生社会推進統括官」を設置し ました。多文化共生についても、知事政策局内に新たに 「外国人活躍推進グループ」を設け、推進体制を強化し たところです。

グループが発足して最初に着手したのは、県内在住の 外国人の生きづらさを解消し、幸福感を持ってもらうに はどうしたらいいかを考えることでした。そのため、先 進的な地域に赴いて様々な方からお話を聞いたり、有識 者やステークホルダーとの話し合いの場を設けたりしま した。そして、外国人住民自身や支援団体、外国人集住 地域の自治会、学生や教育関係者など、様々な人の意見 を集約して、「やまなし多文化共生社会実現構想」を策 定しました。

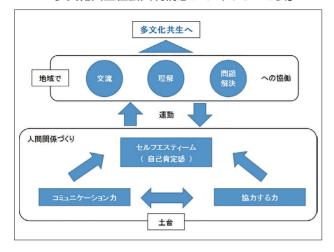


多文化共生社会実現構想委員会の様子

本構想では、国籍を問わず全ての県民が大切にすべき 理念や心構えと、多文化共生の目指すべき方向性を示し ました。具体的には、「コミュニケーション力」「協力す る力|「セルフエスティーム(自己肯定感)|を高めるこ とにより人間関係づくりを深化させるとともに、文化的 背景に関わらず対等の立場で、地域において協力し、交 流や理解、問題解決を進めていくことが必要であると 謳っています。



多文化共生社会実現構想より「あるべき姿」



多文化共生には行政だけでなく、外国人支援団体、民 間など、様々な主体が関わっているところですが、それ ぞれの取り組みが実効性を持ち、有意義で持続可能なも のとなるには、本構想の浸透が肝要であると考えます。

県としても、外国人住民と一緒になって地域のお祭り に参加したり、外国人親子を積極的に支援できる保健師 を育成したりと、本構想を具現化する取り組みに着手し ております。



甲府えびす講祭りで知事(写真中央)とお神輿を担ぐ外国人 たち

日本語教育推進県

また、構想策定以前から外国人地域生活サポーターや 外国人相談センターなど様々な施策を展開してきたとこ ろですが、外国人が日本で生活するに当たって日本語能 力が最も重要であることに鑑み、日本語教育の充実に注 力することにしました。例えば、地域日本語教育を充実 させたり、外国人従業員に対する日本語教育に熱心な企 業への支援を拡充したりといった取り組みを進めていま す。「日本語教育推進県」との名乗りを上げたのは山梨 県が最初であると自負しておりますが、その名に恥じぬ よう、今後も政策を充実させていく予定です。



地域日本語教室(大月市)の参加者と

おわりに

2007年4月に山梨県が多文化共生推進指針を策定 して 15 年以上が経過しました。この間、手垢のついた 言葉のように思われる「多文化共生」を手触りのある言 葉にすべく、「外国人活躍ビジョン」を掲げ、「多文化共 生社会実現構想」を打ち上げました。

英語で言うと、co-existence から inclusivity へ。言 葉の壁や文化の違いなどによる悩みを抱えることの多い 外国人住民や外国にルーツを持つ住民についても、地域 社会に円滑に受け入れられ、社会の一員として包摂され るような温かい社会づくりを進めることが、我々のミッ ションです。日本人でさえ地域社会の紐帯が弱まり孤立 感を覚えがちなこのご時世において、チャレンジングな 使命であることは否めません。しかし、目の前の課題を 一つひとつ解決し、目の前の外国人住民一人ひとりに向 き合うことで、山梨県を「第2のふるさと」と思っても らえるようになると確信しております。



知事と語るやまなしづくり 外国人住民との懇談